

平成24年8月23日

上田市教育委員会
教育委員長 西田不折様

上田市社会教育委員
代表 小林善幸

提 言 書
～ 地域が学校を支える仕組みづくりの推進について～

上田市社会教育委員は教育委員会の諮問に基づき、「上田市の生涯学習推進のための方策について」(平成22年8月31日付)答申を行い、「今後上田市の生涯学習推進のためには、学社連携が不可欠である」旨、特に重点的に述べさせていただきました。

以後、社会教育委員として、先進地視察や市内の学校視察、課題の検討を進めてまいりましたが、現在の学校教育の現状を知る中で、学社連携を進めるに当たっては、地域が学校を支える仕組みづくりが急務であることを認識いたしました。既に、浦里小学校や塩田中学校においては、地域の支援を得てこれまで以上に充実した教育環境を作り出しているとお聞きしております。また、市内全ての学校が地域の教育力を活用した事業を実施してきております。

以上を踏まえ、学校だけが子どもの教育の役割と責任を負うのではなく、学校・家庭・地域がさらに一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる学社連携事業を全市域に拡大するよう、下記のとおり提言いたします。

記

1 学社連携の推進について

(1) 地域の人材情報の活用とボランティアの育成について

ア 地域の人材情報の活用

学校と公民館が随時情報交換することにより、各学校で把握している地域の人材情報と、域内公民館が持っている情報を併せた「地域人材リスト」を作成し、情報の共有化を図ることを希望します。

イ ボランティアの育成

公民館は各学校が求めている支援の把握に努め、社会福祉協議会などとも連携し、学校支援に意欲を持っている人材を地域において発掘するとともに、必要に応じて「学校支援ボランティア講座」を開催し、ボランティアの発掘と拡充、人材の育成を推進することを希望します。

(2) 地域コーディネーターの育成と配置について

学校が地域の外部講師やボランティアを導入する等、地域とのかかわりを深めることにより実施できる事業を推進する際に必要とされるのが、学校と地域の両方の情報を持ち、互いの要求を調整する機能をもつ地域コーディネーターの存在です。

例えば、塩田中学校では「しおだっこ応援団」と塩田公民館職員がその役割を果たしています。また、武石小学校ではコーディネーター役を地域住民が個人で担っている事例があります。

ア 地域コーディネーターの育成

(ア) 基本的には、公民館職員が地域コーディネーターの役割を果たすことを望みます。

(イ) 公民館職員の他に地域コーディネーターが必要な場合は、公民館が組織的にその育成や人材発掘に努めることを求めます。

イ 地域コーディネーターの配置

地域コーディネーターは公民館又は学校に置き、その区域内の小中学校、又は所属する学校を担当することにより、学校を支援する体制が整うことを希望します。

2 キャリア教育の推進について

人とのかかわりや体験が不足している子どもたちの現状を踏まえ、「社会的・職業的に自立した人間の育成」を図るキャリア教育を教育の一つの柱とし、発達段階に応じたキャリア教育を推進するに当たり、関係機関との連携・協力が不可欠となっています。

そうした中で、現在上田市で実施されている職場体験学習に大いに期待するものです。

(1) 職場体験学習について

ア 事業所への周知支援

(ア) 「ものづくり・キャリア教育推進検討委員会」を通じ、全庁体制で全市的に企業への周知を図り、職場体験受け入れ事業所の確保・拡大を図ることを求めます。

(イ) 事業所の情報収集は教育委員会が市長部局とともに行き、学校が持っているデータと合わせて整備することを望みます。

イ 職場体験学習期間の拡大

新学習指導要領の実施により、学校の行事編成は厳しい現状にもかかわらず、職場体験学習として2日以上が確保されることを望みます。

(2) その他のキャリア教育について

学校教育はもちろんのこと、公民館や青少年育成事業等で既に行われている事業を、キャリア教育の視点で見直し、キャリア教育の積極的な啓発・推進を望みます。